

岡山大大学院・中塚教授

正しい知識持ち
妊娠を考えて

県内の学校巡り講演活動

「妊娠」についての正しい知識を若者に広めようと、県産婦人科医会理事の中塚幹也・岡山大大学院保健学研究所教授が、県内の大学や中学・高校を巡っ



中塚幹也教授

て講演会活動に取り組んでいる。通常、30代後半にさしかかると妊娠しにくくなるが、「50歳以上でも自然に妊娠できる」と考える大学

生が3割を超える現状があるため。中塚教授は「正しい知識をもって妊娠を真剣に考えてほしい」と呼び掛けている。

中塚教授が今年4～9月、県内の大学生3

17人に行ったアンケートで「自然に妊娠が可能な年齢は」と質問したところ、「40歳まで」が34・4%、「50歳まで」が29%だった

一方、「50歳以上」と回答したのが36・6%。結果を踏まえ、中塚教授は「一般的には35歳ごろに妊娠しにくくなってくる。十分な知識を持つていない人が多い」と指摘する。

その原因の一つとして、中塚教授は「体の変化や避妊を中心に教える中学、高校の性教育」を挙げる。加齢と妊娠の関係について学ぶ機会が少ないまま不

妊に悩む女性が増えていくという。

厚生労働省によると、第1子を出産する平均年齢は2010年が29・9歳で、30年前から4歳ほど上昇。晩婚化などが原因で、不妊症に悩む夫婦は8～10組に1組いるという。このため、中塚教授は10年ほど前から毎年5～10回、県内の中学や高校、大学を回って性教育講演会を開催。妊娠適齢期は20代から30代前半で、性感症は不妊症のリスクを高めることに加え、体外受精など最新の不妊治療も紹介している。

中塚教授は「不妊治療は日進月歩ではあるが、万全ではない。人生を後悔しないためにも、若いときから妊娠についてよく知り、真剣に考えてほしい」としている。(三島翔)